

国内医学部における学内刊行誌・紀要誌の計量的分析

—国際誌を志向する Web of Science Core Collection 掲載誌を対象として—

城山泰彦 (KIYAMA Yasuhiko)

順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

I. 背景と目的

国内の医学部における学内刊行誌や紀要誌（以下、学内誌）は、筆者が2018年に行った調査¹⁾では、医学部を持つ82大学のうち30大学（36.6%）で英文誌を刊行していた。主要な文献データベースに掲載される学内誌は、英文誌と英文・和文混合誌を合せると、PubMed 16誌、Scopus 28誌、Web of Science (WoS), Science Citation Index Expanded (SCIE) 5誌、WoS, Emerging Sources Citation Index (ESCI) 2誌であった。

本調査では、データベースに掲載される学内誌を計量的に分析して、これからデータベースへの掲載を目指す学内誌にとって、参考となるデータを得ることを目的とした。

II. 調査方法と調査項目

Journal Impact Factor 値 (JIF 値) の付与対象となる、SCIE 2021年版に掲載される学内誌は5誌で、Tohoku J Exp Med (東北大学), J Nippon Med Sch (日本医科大学), Nagoya J Med Sci (名古屋大学), Yonago Acta Med (鳥取大学), Acta Med Okayama (岡山大学)であった。また ESCI 2021年版に掲載される学内誌は3誌で、J Med Invest (徳島大学) と Fukushima J Med Sci (福島県立医科大学) に、2019年版から Keio J Med (慶應義塾大学) が加わった。2023年6月頃に公開予定の Journal Citation Reports 2022年版から ESCI 掲載誌も対象に含むため、8誌に JIF 値が付与される見込みである。

上記8誌を対象に、ジャーナルの指標や学問分野における位置づけをはじめ、新規掲載にあたって求められる、編集委員会体制、掲載文献の著者多様性、引用動向等を確認した。

III. 結果と考察

調査結果から、データベースに掲載される学内誌の傾向を確認できた。データベースに掲載されるためには、ジャーナルの選定基準をクリアしたうえで、編集委員会体制、掲載文献や被引用文献の質や影響力を保つことなどが求められる。調査の過程で、身近な存在である学内誌を刊行する意義と、国際的なジャーナルを目指すためにデータベースの選定基準を整えることは、必ずしも一致した方向性ではないように思われた。学内誌が備え持つ特色と、ジャーナルの方向性を示す明確な“Aims and Scope”が大切であると感じた。そのうえで、医学図書館員の立場から支援できることを検討していきたい。

1) 城山泰彦. 国内医学部における、学内刊行誌・紀要誌の計量的分析：国際誌を志向する学内誌の特徴と、引用文献の動向. 第35回医学情報サービス研究大会抄録集：2018年8月4日～5日；東京：医学情報サービス研究大会；2018.p.42.

【抄録に記載した数値と、演題発表時の数値は異なる】